資　料

ゴルトダンマー刑法雑誌 著者名目録（1）

宮澤浩一
小名木明宏

解　題

1　ゴルトダンマー刑法雑誌（Goltdammer's Archiv für Strafrecht）は，現存するドイツの刑事法関係の雑誌の中でその創刊が最も古い雑誌である。1853年に，当時，ベルリンの高等裁判所(Königliches Obertribunal)の裁判官であったテオドール・ゴルトダンマー（Theodor Goltdammer – v. Bülow, Theodor Goltdammer. ADB Bd. 9, 1879, S. 347）の手で創刊された。第二次大戦後の混乱期であった1945年から52年まで一時休刊を余儀なくされたことがあったが，ボン連邦司法省のハインリッヒ・グリュッツナー(Heinrich Grützner – Nachruf v. Herausgeber u. Verlag, GA 1974, S. 97)の手で1953年に復刊され，1974年に，その後任のパウル＝ギュンター・ペッツに引き継がれて，今日に至っている。

2　1993年に，同誌の創刊140年を記念して，一種の祝賀論文集が公刊された。140 Jahre Goltdammer's Archiv für Strafrecht. Eine Würdigung zum 70. Geburtstag von Paul-Günter Pötz, herausgegeben von Jürgen Wolter, 1993. がそれである。編集同人のなかで，最も若いマンハイム大学のユルゲン・ヴォルターが編者となり，17人の同人のうち，エアランゲン大学のブルンス（ハンス＝ユルゲン・ブルンス）とエーラー（Dietrich Oehler）を除く15人が寄稿している。この企てを，同誌の別冊としてではなく，独立した単行本として

公刊した理由は，本書の副題にもそれが示され，また編者の序言の中でヴォルターが述べているように，同年に，70歳の誕生を迎えた編集主幹のペッツの功績を讃えるためでもあった(以下，同書を『140年記念論文集』とよぶ)。

3　ゴルトダンマー刑法雑誌の戦前の論文の多くは，今日でもなお参照する価値があると考えていた私は，15年程前に，その全論文を整理し，タイプで浄書する仕事を終え，同時に整理を終えた他の19世紀刑事法関係の3雑誌と併せて，1978年に紹介をしたことがある（宮澤浩一・刑法学研究の基礎――十九世紀ドイツ刑法学の論文集成を終えて――法学研究 第51巻5号，1978年)。それより先，1956年に，『外国刑事法文献集成Ⅰゲリヒツザール』を公刊した私は，その第2巻として『スイス刑法雑誌』(1981年)，井田良君の協力を得て，第3巻として『ドイツ全刑法雑誌』(1986年）を相次いで世に問うていた。また，1978年には，『比較刑法研究資料 西ドイツ刑法学』をも出版した。この仕事は，幸いにして，内外の刑法学研究者から好意的に受け入れられたが，日本の同僚のなかには，『鬼面人を驚かす仕事である』と評する人もいた。膨大な研究資料を見てびっくりするのでは，余程，日ごろ真剣に勉強していない証拠ではないかと大変面白く思ったが，日本の研究者のレベルの一端が示されてはいる。それはさておき，私の19世紀刑法学研究への意欲は，その後膨らみ，出来れば，19世紀の刑事法のビブリオグラフィーを纏めたいと思うようになり，慶應義塾派遣留学の機会が与えられた際に，1986／87年の冬学期に半年間，かねてから狙いを付けていたゲッティンゲン大学の国立図書館に籠もり，勉強三昧の生活をした（宮澤浩一・一九世紀ドイツ刑法学研究序説，名城法学 第37巻 別冊 西山富夫教授還暦祝賀論文集，1988年)。ドイツ国内で最も充実しているといわれている図書館の蔵書を存分に利用し，全刑事法・法学関係の雑誌を借り出し，すべての論文に目を通し，論文名とその所在を記録し，内容を検討し，重要と思われる論文・資料をコピーした作業に基づいた，文字通り『基礎研究』であった。帰国後，多忙な生活に取り紛れ，それらの資料は，書庫として借りている自宅近くのマンションにまだ死蔵されている。このよう事情の下にあったため，かなりの時間をかけて資料化の準備をした『ゴルトダンマー刑法雑誌』を内外の研究者の目に触れる形にするのに，全く手が回らない状態であった。

4　いつのことであったか，ドイツ語圏刑法学会でペッツ氏と話をした折り，『ゴルトダンマー誌を資料として本にしてくれないであろうか。残念ながら，ドイツには，その余裕が無い』と持ちかけられ，『実は，準備は出来ているの

だが』と言ったところ，『私が編集主幹をしている間にぜひ見たいものだ』と言うことになった。そうこうするうちに，1993年に，上述の祝賀論文集が出版された。それを見て，かねてから考えていた計画を実行する潮時が来たと思った。折しも，1993年に，渡辺真男君の協力で，スイス刑法雑誌の追録を公刊し（宮澤・渡辺・スイス刑法雑誌（1981年－1992年），法学研究 第66巻11号，1993年），気分が乗ったという事情もあり，また，ドイツ留学を終え，帰国した小名木明宏君の協力を得る体制が整ったこともあり，懸案の解決を図ることにした。小名木君は，大学近くの私の勉強部屋に籠もり，既存のタイプ原稿を全論文に当たってチェックし，加筆・訂正を施し，次いで，氏名別に整理し，ゲッティンゲンで作成した19世紀刑法学の基礎資料ファイルから，関連する学者と実務家の個人データを抜き書きし，著者紹介の簡潔な記事を加える作業を半年間引き受けてくれた。今回，我々が連名で発表する理由は，この地道な協力無しには，貴重な資料が私の勉強部屋の書架に眠ったままになっていたからである。19世紀刑事法学のビブリオグラフィーを作成する作業は，個人の努力ではどうすることも出来ないほどの幅と深さがある。

5　個々の論文の内容や刑事法学における本誌の意義と役割については，利用者の判断に任せることとし，この雑誌が経験した数奇な運命についてコメントしておくことにする。以下の叙述の一部は，既に発表した私の二編の論稿とダブることがあるかも知れず，また，前述の "140年記念論文集" の編者の序言とも幾分重なるところもあるが，この資料集の解題として，やはり述べておきたいと思う。

ゴルトダンマー刑法雑誌が誕生したときは，その誌名は，『プロイセン刑法雑誌(Archiv für Preußisches Strafrecht)』といった。プロイセン王国の刑事法，その立法と判例を紹介する目的で創刊され，実務に寄与するための雑誌の性格をもっていた。ドイツ帝国が誕生し，その統一刑法典が施行された1871年，第19巻から，『ドイツ普通刑法・プロイセン刑法雑誌（Archiv für Gemeines Deutsches und für Preußisches Strafrecht)』と改め，統一ドイツの刑法雑誌であることを明示した。創刊者のゴルトダンマーは，第19巻の11分冊編集中に死去した。第20巻は，高等裁判所判事のマーガー（Mager）が編集を担当したが，第21巻（1873年）から27巻（1879年）までは，同じく高等裁判所判事のハーン（C. Hahn）が編集した。第28巻（1880年）になって，誌名を『刑法雑誌(Archiv für Strafrecht)』に改め，第34巻（1886年）まで，数名の刑事法学者（mehrere Kriminalisten）が編集した。第35巻（1887年）から46巻（1899年）までは，ライ

ヒ裁判所判事カール・オスカー・メヴェス(Karl Oskar Meves－Teichmann, K. O. Meves. ADB, Bd. 52, 1906, S. 331 f.), ダルケ (Albert Dalcke), ムグダン(Mugdan)ら3人の実務家が編集に当たった。第47巻(1900年)は, 世紀の転換期になったためか, 誌名を『刑法と刑事訴訟雑誌(Archiv für Strafrecht und Strafprozeß)』に改め, さらに, 第46巻 (1899年) から編集者に加わったベルリン大学のコーラー(Josef Kohler－Finger, Josef Kohler †, Gerichtssaal Bd. 87, 1920, S. 417 ff.; Klee, Dem Andenken Josef Kohlers † 3. August 1919. GA Bd. 67, 1919; Günter Spendel, Josef Kohler. Bild eines Universaljuristen, 1983) が編集主幹となった。コーラーが, 第67巻の途中で死去した後, ベルリン大学のコーラーの門下生で, 同大学の客員教授を兼ね, 裁判官であったカール・クレー(Karl Klee－NN., Karl Klee. DSt. Neue Folge Bd. 11, 1944, S. 40) が編集主幹となり, 第77巻(1993年)までその任にあった。

6 今回, 公刊する本資料は, 第77巻 (1933年) までの論文・資料を整理したものであるが, 本誌のその後の運命についてもごく手短に紹介しておきたい。ナチスが政権を掌握した1933年の翌年, 当時法務次官であって, 後に, ヒトラーに宛てて, その先兵であると書き, 志願して悪名高い『民族裁判所』(Volksgerichtshof・国民裁判所とも訳す) の長官になり, 大量の死刑を言い渡し, 執行したことで後世に『法服を着たテロリスト』(インゴ・ミュラー) とか『死刑執行官』(ヘルムート・オルトナー) という悪名を残したローランド・フライスラーが編集責任者となり, その誌名も『ドイツ刑法 (Deutsches Strafrecht-DSt)』に改められ, 第1巻(1934年)から, 第11巻(1944年)まで公刊され, 第11巻 (1944年) 1-3合併号の最後の頁に, 短いクレー追悼記事を載せて休刊となった。そして, 1953年に, 『ゴルトダンマー刑法雑誌』という誌名で復刊し, 今年, 42年目を迎え, その間, 若手の学者 (フリッシュ, ヘッティンガー, キューパー, シューネマン, ヴォルター) と実務家 (グラスニック, ノルトライン・ウエストファーレン州の裁判官兼マールブルク大学客員教授) を加え, 充実した内容を誇っている。長年, 編集同人であり, 1994年1月12日に逝去したブルンス(Hans-Jürgen Bruns)の追悼記事が, 141巻 (1994年) 11月号の巻頭に出ている。

7 本誌の性格は, ゴルトダンマーの創刊の辞に残されているように, 『改革を目指す立法のための基礎資料, 裁判例紹介, 統計, 書評を登載することで, 学問と実務の仲介者であることをもって, 本誌の主たる関心事とする』とし, 編集者の交代のたびに同じ趣旨の発言が繰り返された。ゴルトダンマー

の死去とドイツ帝国の発足とが重なった1871年には，既に指摘したように，ドイツ刑法典の施行と政治的な発展への期待から，ドイツ全体の刑法雑誌へと発展的に拡大する願いを込めて誌名が変更された。『刑法雑誌』と誌名が変わった1880年から1899年までは，刑事訴訟法と裁判所構成法が施行された最初のころに当たり，関連する判例が動いている時期であったため，実務家が責任編集者になり，実務と学問の懸け橋の役を演じていた。1900年から1919年にかけては，編集主幹のコーラーの個性，殊に，その多面的な学識を反映して，その内容が，法の歴史，比較法，刑法体系，刑事訴訟，立法過程，刑法上の予防と二元主義，刑法改正，法哲学，行刑学へと広がった。クレーがいみじくも言ったように，本誌の書名は，『刑法史・犯罪学・犯罪訴追学雑誌』となったかのようであった。コーラーの後継者となったクレーは，編集責任者の任に当たった間，本誌の内容を創刊者とその後任のマーガーの基本的な考えに立ち返り，理論と実務の融和を図り，『学問的に理由付けられた判例が集積する場所』になるべく心掛けた。ナチス時代の本誌の内容については，『ドイツ刑法』をまとめて公刊する際に検討したい。

8　最後に，戦後の本誌について，その編集者を中心に取り上げてみる。1953年から73年まで，編集主幹であったハインリッヒ・グリュッツナーは，戦前に，本誌の編集助手としてクレーを支えていた。グリュッツナーと同様，その後継者のペッツも連邦司法省とヨーロッパ理事会の刑法問題委員会で，国際刑法の専門家として活躍し，刑事事件の国際共助に関する注釈書（Grützner-Pötz, Internationaler Rechtshilfeverkehr in Strafsachen, 1953; 2. Aufl., 1980 ff.）で知られる。ペッツが編集主幹になってから，学者の論文が増え，しかも論文のテーマが広がり，総合判例評釈や祝賀論文集・追悼論文集の合評記事も数多く登場し，従来と同じく，判例欄が多彩になるとともに，書評欄の充実が特に目に付くようになった。国際刑法・比較刑法に造詣の深いペッツは，ドイツ語圏刑法学会に毎回出席し，年配の教授，中堅教授ばかりでなく，若手の講師，助手クラスとも別け隔て無く話をし，相談に乗っている。兵役に服し，重傷を負い，右腕を失い，苦労して国家試験に合格し，司法行政に一生を賭けた苦労人の一面を見る思いがする。ドイツの学問が，こうした，実務と学問の架橋に身を捧げた実務家に支えられているのは，19世紀に輩出したゴルトダンマー，ヒッツィッヒ（Julius Eduard Hitzig－S., Dem Andenken Hitzig's. Annalen der deutschen und ausländischen Criminalrechtspflege. Bd. 50, Neue Folge Bd. 20, 1850, S. 107 ff.），ヤーゲマン（Ludwig v. Jagemann－

v. Jagemann, Ludwig Hugo Franz v. Jagemann. ADB Bd. 13, 1881, S. 643 ff.; Hemma Fasoli, Zum Strafverfahrensrecht und Gefängniswesen im 19. Jahrhundert. Der Jurist Ludwig von Jagemann (1805−1853), Seine Rolle in Deutschland unter Berücksichtigung der Entwicklungen in England, Frankreich und USA, 1985), シュワルツエ(Ludwig von Schwarze−Joh. v. Schwarze, Ludwig Friedrich Oscar v. Schwarze. ADB Bd. 33, 1892, S. 253 ff.)らの努力とその功績によるところが大きい。日本の刑法学が，今後，理論的にその厚みを増し，内容的に洗練されるためには，それらの過去の優れた人々の残した文化遺産を踏まえた，幅広い研究をすべきである。そのためには，過去の業績を正当に評価することに全てはかかっている。日本の学問とは違って，ドイツなどヨーロッパにあっては，17，8世紀から今日まで，学問・立法そして判例の動きに至るまで，断絶無しに連続し，発展し続けている。今回発表する迂遠な仕事を飽く事なく続け，現世的な評価と無縁な仕事に取り組んでいるのは，水面に浮かんでいる泡のような学説の尻ばかりを追い，国際的な評価に真面に身を投じようとしない日本の学者達の生き方に絶望し，いつか現れるであろう優れた若者のために，道を切り開いておこうと思っているからにほかならない。しかし，これまで現れた若手の研究業績を含む凡百の論著の多くは，誠に遺憾なことに，相も変わらぬ他人の著作を器用に利用した体のものに過ぎない。

［1995年1月10日，宮澤浩一 記］

アベック　Abegg, Julius Friedrich Heinrich

＊ 23. 3. 1797 Erlangen, † 29. 5. 1868 Breslau.

1821 ao Prof./Königsberg, 1824 o Prof./Königsberg.

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 1 f., 223.

Die Preußische Strafgesetzgebung und die Rechts-Literatur in ihrer gegenseitigen Beziehung. GA Jg. 1, 1853, S. 494–529, 645–661; Jg. 2, 1854, S. 44–66, 360–383, 465–481, 569–587.

Von der Geltendmachung der durch eine strafbare Handlung begründeten privatrechtlichen Ansprüche des Verletzten. GA Jg. 3, 1855, S. 577–604.

Zur Lehre von dem Diebstahl mit besonderer Beziehung auf die Entweichung von Strafgefangenen. GA Jg. 4, 1856, S. 289–303.

Ueber den Gesichtspunkt der Strafbarkeit bei Einreihung verbrecherischer Handlungen in das System eines Strafgesetzbuches. Mit besonderer Berücksichtigung der sogenannten intellektuellen Urkundenfälschung. GA Jg. 6, 1858, S. 27–45.

Beiträge zur Lehre von der Rechtsfindung durch Richter-Kollegien. GA Jg. 6, 1858, S. 738–754; Jg. 7, 1859, S. 3–13, 145–162.

Zur Leher von der Fragestellung an die Geschworenen mit Rücksicht auf §§ 42, 43 des Strafgesetzbuches, die Zurechnungsfähigkeit jugendlicher Gesetzesübertreter betreffend. GA Jg. 7, 1859, S. 721–733.

Zur sprachlichen Auslegung des Strafgesetzbuches, insbesondere der Bedeutung von Oeffentlichkeit. GA Jg. 8, 1860, S. 577–590; Jg. 9, 1861, S. 3–12, 80–85.

Beiträge zur Leher vom Falscheid durch eine untergeschobene Person, und insbesondere, wo die Eidesleistung durch einen Bevollmächtigten stattgefunden hat. GA Jg. 10, 1862, S. 649–659, 721–733; Bd. 11, 1863, S. 3–10.

Die Freiheit der Meinungsäußerung im Verhältniß zu der Strafbarkeit der Injurie. Vergleichung Römischer Auffassung mit der gegenwärtigen. GA Bd. 11, 1863, S. 675–688.

Zur Leher von der strafrechtlichen Verantwortlichkeit der Medizinalpersonen, mit besonderer Berücksichtigung des Preußischen Rechts. GA Bd. 13, 1865, S. 324–331, 385–396.

Zur Lehre von der strafrechtlichen Verantwortlichkeit der Geschworenen. GA

Bd. 14, 1866, S. 168−179, 233−244.

Ueber das Verhältniß des Strafrichters zu der vom Civilrichter erkannten Blödsinnigkeits-Erklarung des Angeschuldigten. GA Bd. 15, 1867, S. 376−387, 433−448.

Ueber den Zeitpunkt und die Art und Weise der Zeugen Verteidigung im strafrechtlichen Verfahren, insbesondere in Preußen. GA Bd. 16, 1868, S. 313−327.

アーラース Ahlers, W.

Das Recht zur Züchtigung fremder Kinder. GA Bd. 63, 1917, S. 216−218.

アースバース Ahsbahs, Leo

Auf der Grenze zwischen Notwehr und Notstand. GA Bd. 53, 1906, S. 427−430.

アルスベルク Alsberg, Max

＊ 16. 10. 1877 Bonn, † 10. 9. 1933 Samanden／Schweiz.

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 4, 224 f.

Zur Frage der Vollstreckbarkeit einer nicht im Urteilstenor ausgesprochene Einzelstrafe. Zugleich ein Beitrag zur Lehre vom „Vorbeschluß". GA Bd. 59, 1912, S. 299−306.

Zur Rechtsprechung des Reichsgerichts in Strafsachen. Bd. 46 der Entscheidungen in Strafsachen. GA Bd. 61, 1914, S. 205−218.

Zur Rechtsprechung des Reichsgerichte in Strafsachen. GA Bd. 61, 1914, S. 484−494.

Der Beweis der außerhalb der Schuldfrage liegenden Momente. GA Bd. 62, 1916, S. 1−8.

Das Vernehmungs- und Fragerecht der Parteien im Strafprozeß. GA Bd. 63, 1917, S. 99−108.

Der Beweisermittlungsantrag. GA Bd. 67, 1919, S. 261−274.

アルトマン Altmann, Albrecht

Bemerkungen zum § 241 des Strafgesetzbuchs. GA Jg. 5, 1857, S. 335−343.

アヌシァト　Anuschat, Erich (Königlicher Kriminalkommissar, Berlin)

Die Schußwaffe in der Hand des Polizeibeamten. Praktisches, Technisches und Rechtliches. GA Bd. 63, 1917, S. 1–31.

Die Schußwaffe in der Hand des Verbrechers. GA Bd. 63, 1917, S. 219–258.

Der Kriminalist als Fährtensucher. Beiträge zur gerichtlichen Spurenkunde. GA Bd. 64, 1917, S. 253–312.

Verbrecherlist und Fahndung im Film. GA Bd. 64, 1917, S. 418–432.

Auf der Fährte des Verbrechers. Probleme der praktischen Strafverfolgung. GA Bd. 66, 1919, S. 1–38.

アペリウス　Appelius, H.

Ueber den Begriff des gewerblichen Arbeiters im deutschen Gewerbepolizeirecht. GA Bd. 42, 1894, S. 368–380.

Der strafrechtliche Inhalt des § 182 Abs. 1 des Invalidenversicherungsgesetzes. GA Bd. 55, 1908, S. 164–170.

アルント　Arndt, Adolf (Prof., Charlottenburg)

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 5; ders., Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft, 1986, S. 327.

Ein Beitrag zur Lehre von der Verjährung erkannter Strafen. GA Bd. 18, 1870, S. 740–748.

Zur Frage der Bestrafung Kriegsgefangener und über sogenanntes Kriegsstrafrecht. GA Bd. 66, 1919, S. 522–530.

Zulässigkeit der Wiederaufnahme mit dem Ziel des Wegfalls einer milderen ideell konkurrierenden Strafbestimmung? GA Bd. 73, 1929, S. 166–168.

Sofortige Beschwerde des Angeschuldigten gegen die Ablehnung des Antrages auf Ergänzung der Voruntersuchung. GA Bd. 75, 1931, S. 125–132.

Antrag des Angeschuldigten auf Voruntersuchung, wenn die Anklageschrift kein Ermittlungsergebnis erhält. GA Bd. 75, 1931, S. 366–367.

Neuregelung des Beweisrechts im Strafverfahren? GA Bd. 76, 1932, S. 264–273.

アウアー Auer, Georg (Staatsanwalt, Budapest)

Vgl. Miyazawa, Schweizerische Zeitschrift für Strafrecht, 1981, S. 7; ders., Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft, 1986, S. 330.

Die Bezahlung der Geldstrafe durch einen Dritten. (Nach den ungarischen Strafgesetzen.) GA Bd. 58, 1911, S. 262−264.

Der Betrug in der Novelle des ungarischen Strafgesetzbuches. GA Bd. 59, 1912, S. 40−47.

Über den Wahrheitsbeweis bei dem Vergehen der Ehrenbeleidigung nach dem ungarischen Strafgesetzbuche. GA Bd. 59, 1912, S, 410−414.

Die Reform des ungarischen Strafgesetzbuches. GA Bd. 61, 1914, S. 108−112.

Die Vorentwurfe zu einem ungarischen Strafgesetzbuche. GA Bd. 62, 1916, S. 69−80.

Internationales Strafrecht. GA Bd. 64, 1917, S. 507−511.

Fahrlassigkeit und Betriebsunfall. GA Bd. 66, S. 197−221.

アウアーバッハ Auerbach, Ernst (Rechtsanwalt, Frankfurt a. M.)

Der § 415 der deutschen Strafprozeßordnung. GA Bd. 33, 1885, S. 302−322.

Zur Auslegung des § 209 Abs. 2 StPO. GA Bd. 46, 1898／99, S. 277−280.

A., H. (イニシァルのみの記載)

Zum Thatbestand von Unterschlagung und Untreue. GA Bd. 36, 1888, S. 346−369.

Zum Begriff „strafbare Patentverletzung". GA Bd. 41, 1893, S. 351−355.

ベルツ Bälz (Staatsanwalt, Schwäb. Hall)

Versuchter oder vollendeter Diebstahl? GA Bd. 39, 1891, S. 141−142.

ベア Baer (Rechtsanwalt, Düsseldorf)

Sprache und Logik im Strafgesetzentwurf. GA Bd. 75, 1931, S. 286−291.

バーマン Bahmann

Philosophen und Laienrechtsprechung. GA Bd. 59. 1912, S. 250−254.

バル　Ball, Kurt

Entwurf einer Reichsbeschlagnahmeordnung. GA Bd. 66, 1919, S. 304−339.

バール　v. Bar, Carl Ludwig

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 8 f., 225 f.; ders., Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft, 1986, S. 331 f.; Maiwald, Carl Ludwig von Bar (1836−1913) als Lehrer des Strafrechts, in: Rechtswissenschaft in Göttingen. Göttinger Juristen aus 250 Jahren (Hrsg. von Fritz Loos), 1987, S. 270; Deutsch, Arztrechtler in Göttingen Ludwig von Bar, Ernst Rabel und Eberhard Schmidt, in: Rechtswissenschaft in Göttingen. Göttinger Juristen aus 250 Jahren (Hrsg. von Fritz Loos), 1987, S. 289.

Zur Lehre von den alternativen Fragen im schwurgerichtlichen Verfahren. GA Bd. 15, 1867, S. 569−577.

Ueber einige strafrechtliche Fragen, welche durch die Verbindung mehrerer fruher selbstständiger Deutschen Staaten mit der Preußischen Monarchie entstanden sind. GA Bd. 15, 1867, S. 664−672.

Bemerkungen über den Rückfall in Bezug auf Vorbestrafungen in den neuen Provinzen, sowie über die Kontinuitat der Souverainetat im Falle der Inkorporation eines bisher selbstständigen Staates überhaupt. GA Bd. 16, 1868, S. 252−261.

Bemerkungen über die internationalen und staatsrechtlichen Bestimmungen des Entwurfs eines Strafgesetzbuchs fur den Norddeutschen Bund. GA Bd. 18, 1870, S. 83−94.

Ueber die Wirkungen des Verbots eines Geschaftsbetriebes in internationaler Beziehung. GA Bd. 18, 1870, S. 449−457.

Ueber einige Fragen der sogenannten ruckwirkenden Kraft eines neuen und insbesondere eines milderen Strafgesetzes. GA Bd. 19, 1871, S. 73−81.

Ueber die rechtliche Natur des Strafantrags des Verletzten bei den sogenannten Antragsdelikten. GA Bd. 19, 1871, S. 641−652, 713−721.

Die projektirte Reform des italienischen Strafprozesses. GA Bd. 48, 1901, S. 38−62, 207−229.

バーバー Barbar, Leo (Rechtsanwalt, Sofia)

Bericht über neue Forschungsergebnisse zum altpolnischen Hexenprozeß. GA Bd. 73, 1929, S. 338−342.

バッレ Barre, Ernst (Landgerichtsrat, Trier)

Ist der Protokollhandel des Rheinisch-Franz. Rechtes ein nach den Preuß. G. v. 30. Mai 1820 und v. 3. Juli 1876 steuerpflichtiges Gewerbe? GA Bd. 37, 1889, S. 421−423.

Hat das Gericht oder die Staatsanwaltschaft die Revisionsschrift zuzustellen (§ 387 StPO)? GA Bd. 38, 1890, S. 15−19.

Ueber anthropometrisches Signalement. GA Bd. 38, 1890, S. 419−422.

Die Vorschläge der Generalsynode zum Zwecke der Abänderung strafrechtlicher Vorschriften, in juristischer Beleuchtung. GA Bd. 40, 1892, S. 126−135.

Sind die Gewerbebeschränkungen über das Schrotwesen durch die Gewerbeordnung aufgehoben? GA Bd. 41, 1893, S. 119−120.

バッシン Bassin (Kreisrichter, Halle a. S.)

Die „Ehrlosigkeit" des alten Rechts und der „Verlust der burgerlichen Ehre" im Strafgesetzbuche. GA Bd. 16, 1868, S. 823−839.

ベッカー Becker, Walter

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 10, 227.

Reformatio in pejus durch Erhohung einer Gefängnisstrafe mit Rucksicht auf den wegen Tateinheit eintretenden Wegfall einer Geldstrafe? GA Bd. 72, 1928, S. 184−186.

Akteneinsicht Dritter im Strafprozeß. GA Bd. 77, 1933, S. 266−271.

ベーリング Beling, Ernst

* 19. 6. 1866 Glogau, † 18. 5. 1932 München.

1890 Dr./Breslau, 1987 ao Prof./Breslau, 1898 o Prof./Breslau, 1900 Gießen, 1902 Tübingen, 1913 München.

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 10 f., 227 ff.

Der nicht mitangefochtene und der teilweise angefochtene Schuldspruch.

Münchener Festgabe für Karl v. Birkmeyer zum 27. Juni 1917. GA Bd. 63, 1917, S. 163−208.

Rechtsfrage und revisionsinstanzliche Abstimmung im Strafprozeß. GA Bd. 67, 1919, S. 141−177.

ベンディクス　Bendix, Ludwig（Rechtsanwalt, Berlin）

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 11; ders., Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft, 1986, S. 399 f.

Lücken im Entwurfe eines Gesetzes betreffend die Entschädigung für unschuldig erlittene Untersuchungshaft. GA Bd. 51, 1904, S. 145−152.

Die Rechtspflicht des Schweigens. GA Bd. 52, 1905, S. 1−14.

Zum Thema: Gesetzestechnik und Gesetzeslücken. GA Bd. 53, 1906, S. 430−433.

Die freie Beweiswürdigung des Strafrichters. Ein Beitrag zum Relativismus der Rechtsanwendung. GA Bd. 63, 1917, S. 31−45.

ベネディクト　Benedict, Wilhelm（Rechtsanwalt, Berlin）

Der Strafprozess der Reformkommission. GA Bd. 53, 1906, S. 247−261,

ベルプスト　Berbst, G.（Landrichter, Landsberg a. W.）

Die Rückwirkung der Geisteskrankheit und Strafmündigkeit（§§51, 55 St. G. B.）auf das Thatbestandsmerkmal der Hehlerei, das Erlangtsein mittels einer strafbaren Handlung（§259）, das Vergehen des von Mehreren begangenen Hausfriedenbruchs und der in gleicher Weise begangenen Körperverletzung（§§123 Abs. 3, 223a St. G. B.）. GA Bd. 28, 1880, S. 112−125.

ベルクホルツ　Bergholtz（Staatsanwalt, Hamm）

Ueber Simulation Militairdienstpflichtiger. GA Jg. 2, 1854, S. 489−490.

ベーリング　Bering（Kreisgerichtsrat, Halle）

Zum Gesetz, betreffend die Wechselstemplsteuer vom 10. Juni 1869. GA Bd. 22, 1874, S. 30−33.

ベルナー Berner, Albert Friedrich

＊ 30. 11. 1818 Straßburg, † 13. 1. 1907 Berlin-Charlottenburg.

1848 ao Prof./Berlin, 1861 o Prof./Berlin.

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 12, 229 f.

Non bis in idem. GA Jg. 3, 1855, S. 472−496.

Erinnerung an Abegg. GA Bd. 16, 1868, S. 409−411.

Zur Gesetzgebung über Körperverletzung. GA Bd. 16, 1868, S. 737−739.

Ein gemeinsames Norddeutsches Strafgesetzbuch. Bemerkungen. GA Bd. 16, 1868, S. 817−822.

ベルトラープ von Bertrab (Staatsanwalt, Brandenburg)

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 12.

1. Kritik der Kompetenz-Bestimmungen ratione materiae-Versetzung in den Anklagestand; Mandats-Verfahren. 2. Zur Lehre von den Rechtsmitteln-Schwurgerichtshöfe als Appellations-Instanz. GA Jg. 5, 1857, S. 183−200.

Der Indicienbeweis im Schwurgericht. II. Untersuchung wider den Böttchergesellen Fuchs. GA Bd. 16, 1868, S. 400−408.

Ueber die prozessualische Behandlung der Zuwiderhandlungen gegen § 147 Nr. 1 der Gewerbe-Ordnung für den Norddeutschen Bund vom 21. Juni 1869. GA Bd. 18, 1870, S. 675−680.

ビッペン v. Bippen (Oberkriegsgerichtsrat Hannover)

Meinungsverschiedenheiten zwischen dem Gerichtsherrn und seinem Militärjustizbeamten. GA Bd. 52, 1905, S. 169−188.

ビルクマイヤー Birkmeyer, Karl

＊27. 6. 1847 Nürnberg, † 29. 2. 1920 München.

1874 ao Prof./München, 1877 o Prof./Rostock, 1886 München.

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 15, 233f.; ders., Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft, 1986, S. 344 f.

Gedanken zur bevorstehenden Reform der deutschen Strafgesetzgebung. GA Bd. 48, 1901, S. 67−100.

ビショッフ　Bischoff (Landgerichtdirektor, Cottbus)

Beiträge zur Auslegung der §§ 73, 74 des Reichsstrafgesetzbuchs. GA Bd. 29, 1881, S. 140−153.

Die auswärtigen Strafkammern in der Berufungsinstanz nach Preußischem Landesrecht. GA Bd. 30, 1882, S. 305−321.

Ueber den Inhalt der Rechtsbelehrung im Schwurgericht. GA Bd. 40, 1892, S. 1−17.

Inwieweit haben die Geschworenen das positive Strafgesetz in Betracht zu ziehen? GA Bd. 42, 1894, S. 349−368.

Die Voraussetzungen der Unzuständigkeitserklärung in § 270 der Strafprozeßordnung. GA Bd. 44. 1896, S. 81−92.

Die Praxis im schwurgerichtlichen Berichtigungsverfahren. GA Bd. 46, 1898／99, S. 1−19.

ビスマルク　v. Bismark (Staatsanwalt, Anclam)

Zur Lehre von der Urkundenfälschung. GA Bd. 17, 1869, S. 622−625.

ブローメ　Blome (Landgerichtsrat, Ostrowo)

Der Vergleich im Strafverfahren. GA Bd. 41, 1893, S. 24−27.

ボーデ　Bode, Gustav (Rechtsanwalt, Berlin)

Kindesmord und Bevölkerungsabnahme auf den polynesischen Inseln. GA Bd. 53, 1906, S. 113−121; Bd. 54, 1907, S. 123−132.

Die Bestrafung des Kindesmordes im mittelalterlichen schweizerischen Recht. GA Bd. 56, 1909, S. 131−137.

Die Kindestötung und ihre Bestrafung im Nürnberg des Mittelalters. GA Bd. 61, 1914, S. 430−484.

Der Kindesmord bei den Australnegern. (Forts. Bd. 53, S. 113). GA Bd. 62, 1916, S. 8− 19.

Der Kindesmord auf Neuguinea. GA Bd. 66, 1919, S. 70−75.

Der Kindesmord in China. GA Bd. 66, 1919, S. 270−274.

ボーデンハイム Bodenheim (Amtsrichter, Melle)

Die Urkundenfälschung im Entwurf des Strafgesetzbuchs. GA Bd. 70, 1926, S. 39−41.

ボーデンハイマー Bodenheimer (Landgerichtsrat, Mannheim)

Ist Unzucht mit einer Leiche strafbar? GA Bd. 54, 1907, S. 337.

ベーラウ Böhlau, Hugo Heinrich Albert (Prof., Rostock)

＊ 4. 1. 1833 Halle a. S., † 24. 2. 1887 Werneck.

1859 ao Prof./Halle, o Prof./Greifswald.

Volenti non fit in injuria? Mit Bezug auf Archiv I. S. 325−333. GA Jg. 5, 1857, S. 489−501.

Replik in Sachen wider Rose Rosal. GA Jg. 8, 1860, S. 156−162.

Occidere und causam mortis praestare. Eine Antwort auf eine Frage. GA Bd. 13, 1865, S. 472−474.

Zu dem Rechtsfall: Fahrlässige Tödtung, Tödten oder Veranlassung des Todes. GA Bd. 14, 1866, S. 729−731.

ベルンゲン Börngen (Landrichter, Altenburg)

Darf dem Privatkläger die Zahlung eines Gebühren- oder Auslagenvorschusses unter Androhung der Einstellung des Verfahrens nach § 431 Abs. 2 StPO. aufgegeben und im Nichtzahlungsfalle das Verfahren eingestellt werden? GA Bd. 38, 1890, S. 266−273.

ベトリッヒ Böttrich (Landgerichtsdirektor, Liegnitz)

Die Strafkammern als Gerichte erster Instanz und die Erfahrungen der Praxis. GA Bd. 32, 1884, S. 248−264.

ボーマイヤー Bohmeyer (Staatsanwalt, Kiel)

Die Rückgabe von Überführungsstücken. GA Bd. 74, 1930, S. 191−199, 342−348.

ボルツェ　Bolze（Oberlandesgerichtsrat, Dessau）

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 16.

Ueber den Begriff der Rechtmäßigkeit der Amtsausübung im § 113 des Reichs-Strafgesetzbuchs. GA Bd. 23, 1875, S. 389−397.

Wie können Richter, Staatsanwalt oder Vertheidiger zum Zeugniß herangezogen werden? GA Bd. 25, 1877, S. 202−207.

Die Beleidigung kollektiver Personeneinheiten. GA Bd. 26, 1878, S. 1−22.

ボルヒ　v. Borch, Freiherr L.

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 18; ders., Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft, 1986, S. 351.

Zum Fränkischen Recht des deutschen Königs. GA Bd. 36, 1888, S. 98−101.

Karl V. und die beleidigte Majestät. GA Bd. 40, 1892, S. 135−137.

ボーツィ　Bozi（Landrichter, Aurich）

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 18.

Die Zwangsvollstreckung der auf Einziehung lautenden Strafurtheile gegenüber dritten Personen. GA Bd. 39, 1891, S. 414−419.

Unterliegen die mit Drahtbügel verschlossenen Flaschen der Aichungspflicht? GA Bd. 43, 1895, S. 100−104.

ブライアン　Breyhan, C.

Niederschlagung und Prozeßrecht. GA Bd. 71, 1927, S. 11−17.

ブレットナー　Brettener（Landgerichtsrat, Cottbus）

Ueber einen Mißstand im Privatklageverfahren. GA Bd. 41, 1893, S. 20−24.

Die Eideslehre im neuen Gesetzentwurfe zur Straf-Prozeß-Ordnung. GA Bd. 42, 1894, S. 1−6, 382−385.

Glossen zu Binding's Kritik des Entwurfs. GA Bd. 43, 1895, S. 21−29.

Die beabsichtigte Erweiterung der Privatklage. GA Bd. 43, 1895, S. 342−348.

Das bürgerliche Gesetzbuch in seiner Einwirkung auf das Strafrecht. GA Bd. 45, 1897, S. 81−84.

ブルック Bruck, Felix Friedrich (Prof., Breslau)

Vom Urheber des verbrecherischen Erfolges. Eine Antwort auf die Kritik des Herrn Prof. Birkmeyer in München in der kritischen Vierteljahrsschrift für Gesetzgebung und Rechtswissenschaft. München 1888, S. 587−603. GA Bd. 36, 1888, S. 420−432.

ブルッケ Brucke

Bemerkungen zum RG Urtheil v. 3. Okt. 1890. GA Bd. 40, 1892, S. 110−112.

ブリュックマン Brückmann Arthur

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 22; ders., Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft, 1986, S. 354.

Eine vergessene Vorschrift? GA Bd. 52, 1905, S. 145−150.

ブリューガー Brüger, K. (Oberlandesgerichtspräsident, Jena)

Ist der Reisende eines Branntweingeschäfts, welcher außerhalb des Gemeindebezirks der gewerblichen Niederlassung seines Principals Bestellungen auf Branntwein bei Personen, in deren Gewerbebetrieb derselbe keine Verwendung findet, aufsucht, aus § 56a Ziffer 3 und § 148 Ziffer 7a der Gewerbeordnung strafbar? GA Bd. 39, 1891, S. 1−6.

ブハワ v. Buchka, Hermann Friedrich Ludwig Rudolf
(Oberlandesgerichtsrat, Rostock)

＊ 19. 6. 1821 Schwanbeck, † 15. 6. 1896 Schwerin.

Der Strafprozeß gegen den Bergmann Wilhelm Unkenstein aus Lübtheen. GA Bd. 40, 1892, S. 17−32.

Ueber die Bedeutung und Tragweite der Bestimmung des § 100e Nr. 3 der GewO. und der auf Grund derselben erlassenen Anordnungen der höheren Verwaltungsbehörden. GA Bd. 43, 1895, S. 188−194.

ビューラー Bührer

Die Fundaneignung nach dem R. St. G. B. und dem Vorentwurf zu einem

Deutschen Strafgesetzbuch. GA Bd. 59, 1912, S. 435−440.

ビューロー　Freiherr v. Bulow (Reichsgerichtsrat)

＊11. 9. 1837 Breslau, † 19. 11. 1907 Heidelberg.

1865 ao Prof./Gießen, 1867 o Prof./Gießen, 1872 Tübingen, 1885 Leipzig.

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 24; ders., Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft, 1986, S. 357.

Der verantwortliche Redakteur und seine strafrechtliche Haftung. GA Bd. 40, 1892, S. 241−256.

Zur Frage der strafrechtlicen Haftung des verantwortlichen Redakteurs. GA Bd. 43, 1895, S. 324−342.

Zur Frage des Unterschiedes zwischen strafrechtlichen und anderen Rechtsnormen. GA Bd. 45, 1897, S. 321−332.

ブール　Buhl, (Staatsanwalt, Breslau)

Vgl. Miyazawa, Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft, 1986, S. 357.

Ein interessanter Beitrag zur Rechtsprechung über die Tragweite des § 137 Abs. 7 der GewO. GA Bd. 63, 1917, S. 332−333.

ブル　Bull

Unzulässige Berufung. GA Bd. 77, 1933, S. 18−20.

ブリング　Bulling (Geheimer Justizrat)

Der Begriff des Zolles. GA Bd. 41, 1893, S. 120−124.

ブハルディ　Burchardi, Georg Christian

＊ 23. 12. 1795 Ketting, † 16. 7. 1882 Kiel.

1819 ao Prof./Bonn, 1821 o Prof./Bonn.

Die Fragestellung an die Geschworenen im Preußischen Strafverfahren. GA Jg. 1, 1853, S. 583−611.

ブーリ v. Buri Maximilian Georg Wilhelm Carl Theodor Gottfried

＊ 7. 3. 1825 Budingen (Hessen), † 20. 4. 1902 Wiesbaden.

1879 Reichsgerichtsrat.

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 24 ff. 237.; ders., Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft, 1986, S. 359.

Zur Frage über den Begriff des Giftes. GA Jg. 10., 1862, S. 745−748.

Zur Lehre von der Tödtung. GA Bd. 11, 1863, S. 753−765, 797−806, Bd. 12, 1864, S. 3−10,

Der sogenannte mittlere Standpunkt für die Unterscheidung zwischen Urheberschaft und Beihülfe. GA Bd. 12, 1864, S. 505−514.

Ueber Kausalzusammenhang und dessen Zurechnung. GA Bd. 14, 1866, S. 608−616, 717−728.

Urheberschaft und Beihülfe. GA Bd. 17, 1869, S. 233−241, 305−314.

Zur Lehre von der Theilnahme am Verbrechen. GA Bd. 24, 1876, S. 89−92.

Ueber das Wesen des Versuchs. GA Bd. 25, 1877, S. 265−317.

ブーシャン Buschan, G.

Das Signalement anthropométrique zur Wiedererkennung rückfälliger Verbrecher (Bertillonage). GA Bd. 44, 1896, S. 27−33.

カンペ v. Campe (Regierungspräsident)

Die Öffentlichkeit eine Gefährdung der Wahrheitsfindung im Strafverfahren? GA Bd. 73, 1929, S. 242−249.

カルガニコ Carganico (Staatsanwalt, Insterburg)

Ueber den Denunzianten-Antheil und dessen Höhe bei verbotenem Hazardspiel. GA Bd. 15, 1867, S. 221−225.

Grausame Tödtung einer Ehefrau. GA Bd. 17, 1869, S. 684−689.

Lebendig begraben. GA Bd. 18, 1870, S. 462−466.

Mord oder Todtschlag. GA Bd. 19, 1871, S. 166−172.

クラーセン Claassen (Staatsanwalt, Marienwerder)

Zur Auslegung des § 369 Nr. 2 des StGBuchs. (Ein Rechtsfall). GA Bd. 41,

1893, S. 377−379.

クレメンス　Clemens

Ist der Eid bzw. die eidesstattliche Versicherung des Beschuldigten in jedem Abschnitt des Strafprozesses unzulässig und unwirksam? GA Bd. 75, 1931, S. 165−166.

コーン　Cohn, Ludwig

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 29.

Die den untauglichen Versuch betreffende Plenarentscheidung des Reichsgerichts. GA Bd. 28, 1880, S. 361−394.

コーン　Cohn, Robert (Landgerichtsrat, Oppeln)

Zur Leher vom strafbaren Bankerutt. GA Bd. 41, 1893, S. 198−221.

コンラート　Conrad (Reichsgerichtsrat)

Bemerkungen zu den §§ 61 und 69 in Beziehung auf den § 172 R. St. G. B. GA Bd. 35, 1887, S. 17−25.

Über die Bedeutung des § 228 B. G. B. in Beziehung auf Wildschaden. GA Bd. 59, 1912, S. 401−410.

コルデス　Cordes

Zur strafrechtlichen Beurtheilung der Schutzgenossenschaften. GA Bd. 28, 1880, S. 416−425.

コスマン　Cosmann, Erich

Sind Widersetzlichkeiten gegen Mannschaften der Feuerwehr in Ausübung des Dienstes nach § 113 StGB. strafbar? GA Bd. 58, 1911, S. 265−271.

クーリン　Coulin, Alexander

Über die geschichtlichen Grundlagen des modernen Privatzweikampfes. GA Bd. 55, 1908, 134−137.

Abusiver Gerichtsgebrauch oder monströses Gewohnheitsrecht? GA Bd. 55,

1908, S. 344.

クラッセルト Crasselt, F.

Auswüchse japanischen Volksglaubens (Götterzwang). GA Bd. 56, 1909, S. 127−131.

ダルケ Dalcke, Albert. (Oberstaatsanwalt, Stettin)

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 30.

Ist nach der neuesten Preußischen Strafgesetzgebung noch der Einwand der Unkenntniß des Strafgesetzes zu berücksichtigen? GA Jg. 6, 1858, S. 63−71.

Kennt das Preußische Strafrecht einen strafbaren Versuch der Vergiftung im Sinne des § 197 des Strafgesetzbuchs? GA Jg. 6, 1858, S. 445−457.

Ueber die gegenwärtige Stellung der Staatsanwaltschaft im Preußischen Strafverfahren und ihre Reform. GA Jg. 7, 1859, S. 734 − 745; Jg. 8, 1860, S. 145 − 155; Jg. 9, 1861, S. 155−164.

Die Anklagebeschlusse im schwurgerichtlichen Verfahren. GA Jg. 10, 1862, S. 451−456.

Zur Auslegung des § 126 des Strafgesetzbuchs, insbesondere über den durch Verschweigen erlittener Strafen geleisteten Meineid. GA Jg. 10, 1862, S. 605−613.

Die Befugniß der Königlichen Bezirksregierungen zum Erlaß jagdpolizeilicher Verordnungen, insbesondere zur Feststellung der allgemeinen Schon- und Hegezeit. GA Bd. 11, 1863, S. 594−599.

Ueber das Prinzip der Mündlichkeit im Strafverfahren, insbesondere in Ansehung des Zeugenbeweises. GA Bd. 12, 1864, S. 11−21, 83−90.

Ueber das strafgerichtliche Vorverfahren und die richtige Begrenzung der Kompetenz der in demselben thätigen Behörden. GA Bd. 14, 1866, S. 15−29.

Zur Lehre von der Fragestellung, insbesondere über die Nothwendigkeit und das Maaß der Spezialisirung des konkreten Thatbestandes. GA Bd. 14, 1866, S. 153−167.

Ueber die Kumulation von Geldbußen im Falle der realen Konkurrenz. Zur Auslegung des § 56 des Preuß. Strafgesetzbuchs. GA Bd. 14, 1866, S. 462−468.

Ueber den Thatbestand der Brandstiftung, durch welche ein Mensch das Leben verloren hat. GA Bd. 16, 1868, S. 13−23.

Beiträge zur Revision des Preußischen Strafrechts. GA Bd. 17, 1869, S. 3−16, 81−93, 393−405.

Ueber den Umfang und die Beschaffenheit des Gestandnisses im Sinne des § 402 Nr 4 der deutschen Strafprozeßordnung. GA Bd. 34, 1886. S. 81−89.

Kann nach § 211 der Reichskonkursordn. neben dem Schuldner auch der begünstigte Gläubiger wegen Theilnahme (Beihülfe oder Anstiftung) an dem Delikte des Schuldners bestraft werden? GA Bd. 37, 1889, S. 342−351.

Die Lage der Rechtsprechung über die Frageüob und inwieweit die Vorschriften des D. BGB. über Gewährung der Rechtshülfe und die Bestimmungen der D. StPO. über den Zeugnißzwang auf das Verfahren in Disciplinaruntersuchungen Anwendung finden. GA Bd. 39, 1891, S. 248−260.

Die Wegschaffung der Asservate in Strafsachen. GA Bd. 39, 1891, S. 405−409.

Kann der Antrag auf gerichtliche Entscheidung auf Grund des § 170 der StPO. auch im ehrengerichtlichen Verfahren nach der Rechtsanwaltsordn. vom 1. Juli 1878 erhoben werden? GA Bd. 40, 1892, S. 89−92.

Ueber die Innehaltung der Fristen aus § 170 der StPO. GA Bd. 40, 1892, S. 256−259.

Eine kurze Bemerkung zu § 81 StPO. GA Bd. 40, 1892, S. 412−414.

Weitere Bemerkungen zur Auslegung des § 170 StPO. GA Bd. 41, 1893, S. 93−96.

Nach welchm Gesetz ist derjenige zu bestrafen, welcher es versucht, sich durch einen nicht auf seinen Namen ausgestallten fremden Jagdschein zu legitimiren? GA Bd. 43, 1895, S. 320−324.

Unter welches Strafgesetz fällt die rechtswidrige Aneignung eines elektrischen Stromes? GA Bd. 45, 1897, S. 401−407.

Eine kurze Bemerkung zur Auslegung des § 159 des GVerfG. GA Bd. 45, 1897, S. 407−409.

ダンバッハ　Dambach, Otto Wilhelm Rudolf.

＊ 16. 12. 1831 Querfurt (Prov. Sachsen), † 18. 5. 1899 Berlin.

Ueber den Rechtsgrund der Verjährung im Preußischen Strafrecht. GA Jg. 9, 1861, S. 30−36.

ダニエルス v. Daniels, Alexander

＊ 9. 10. 1800 Dusseldorf, † 4. 3. 1868 Berlin.

1844 o Prof./Berlin.

Zur Geschichte des älteren Deutschen Strafrechts. GA Jg. 9, 1861, S. 241−244.

ダンゲルマイアー Dangelmaier, Emil (Hauptmann-Auditor, Innsbruck)

Die Militär-Gerichtsbarkeit in ihrer historischen Entwickelung und heutigen Gestaltung. GA Bd. 32, 1884, S. 499−466.

デーク Deeg, H. P.

Qualifizierte Beihilfe. GA Bd. 77, 1933, S. 271−281.

デリウス Delius (Landrichter, Cottbus)

Die Beschlagnahme des Vermogens (annotatio bonorum) im heutigen Strafrecht. GA Bd. 37, 1889, S. 117−130.

Inwieweit ist Strafverfolgung und Strafvollstreckung gegenüber Ausgelieferten nach den Auslieferungsverträgen des Reiches und der einzelnen Bundesstaaten zulässig? GA Bd. 39, 1891, S. 112−128.

Neue Beiträge zur Auslegung des § 170 StPO. GA Bd. 43, 1895, S. 177−187.

Eine Frage aus dem Auslieferungsrecht. GA Bd. 46, 1898/99, S. 22−25.

ディエテリチ Dieterici (Staatsanwalt, Wesel)

Anklage- oder Untersuchungs-Prozeß? GA Jg. 2, 1854, S. 501−512.

Die Gewalten des Strafprozesses. GA Jg. 4, 1856, S. 189−202.

ディーツ Dietz, Heinrich (Armeeoberkriegsgerichtsrat)

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 31; ders., Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft, 1986, S. 372 f.

Keine Wehrpflicht der Verbrecher! GA Bd. 53, 1906, S. 225−235.

Die Fragestellung beim Mord und die Zerteilung der Fragen nach Einzelmerkmalen. GA Bd. 56, 1909, S. 49−53.

Zur Kriminalstatistik für das deutsche Heer und die Kaiserliche Marine. GA Bd. 58, 1911, S. 408−435.

Gegen die Aufhebung der Militärgerichtsbarkeit. GA Bd. 69, 1921−1925, S. 36−39.

ディットマン　Dittmann (Staatsanwalt, Amberg)

Zur Auslegung des § 417 Abs. III StPO. GA Bd. 52, 1905, S. 298−307.

ディッツェン　Ditzen (Kammergerichtsrat, Berlin)

Aus den ersten sechs Bänden der Entscheidungen des Reichsmilitärgerichts. GA Bd. 52, 1905, S. 215−231, 363−382; Bd. 53, 1906, S. 45−64.

ドックボルン　Dockborn (Kreisrichter, Kempen)

Ueber die Strafbarkeit öffentlicher Verbrechen und Vergehen, welche von Preußischen Staatsangehörigen im Auslande gegen ausländische Staaten begangen werden, - nach Preußischem Strafrecht. GA Bd. 12, 1864, S. 97−109, 196−209.

デール　Doerr, Friedrich

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 32, 238.; ders., Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft, 1986, S. 376.

Der Prozeß Jesu in rechtsgeschichtlicher Beleuchtung. Ein Beitrag zur Kenntnis des jüdisch-romischen Provinzialstrafrechts. GA Bd. 55, 1908. S. 12−65.

Die Systematik des besonderen Teils des Strafrechts. Münchener Festgabe für K. v. Birkmeyer. GA Bd. 64, 1917, S. 29−82.

Fortsetzung der Berichte über die neueste, in der amtlichen Sammlung veröffentlichte Rechtsprechung des Reichtsgerichts in Strafsachen. III. Materielles Strafrecht im übrigen. GA Bd. 68, 1920, S. 340−347.

Berichte usw. II. Materielles Strafrecht. GA Bd. 69, 1921−1925, S. 78−82.

Ausschluß der Berufung. Erläuterungen zu § 313 StPO. GA Bd. 69, 1921−1925, S. 219−221.

Die neueste Rechtsprechung des Reichsgerichts zum materiellen Strafrecht. (RGSt. Bd. 58, S. 1−192). GA Bd. 69, 1921−1925, S. 276−283.

Die neueste Rechtsprechung des Reichsgerichts zum materiellen Strafrecht. (RGSt. Bd. 58, S. 193−336). GA Bd. 69, 1921−1925, S. 433−439.

Die neueste Rechtsprechung des Reichsgerichts zum materiellen Strafrecht. (RGSt. Bd. 58, Heft 6 und 7, S. 337−432). GA Bd. 70, 1926, S. 195−200.

Hat das Revisionsgericht die Zulässigkeit der vorausgegangenen Berufung von Amts wegen zu prüfen? GA Bd. 72, 1928, S. 91−94.

Die Rechtsprechung des Bayrischen Obersten Landesgerichts in Strafsachen. (Nach dem neuesten - 27. - Bande der Sammlung von Entscheidungen dieses Gerichts in Strafsachen). GA Bd. 73, 1929, S. 4−15.

Die Rechtsprechung des Bayerischen Obersten Landesgerichts in Strafsachen, Nach dem neuesten (28.) Bande der Sammlung von Entscheidungen dieses Gerichts in Strafsachen. GA Bd. 74, 1930, S. 10−15, 107−112.

Die Rechtsprechung des Bayr. Obersten Landesgerichts nach dem neuesten (29.) Bd. der Sammlung von Entsch. dieses Gerichts in Strafsachen. Bd. 75, 1931, S. 166−169, 209−212.

Die Rechtsprechung des Bayrischen Obersten Landesgerichtes. GA Bd. 76, 1932, S. 136−146.

Die Rechtsprechung des Bayr. Obersten Landesgerichtes in Strafsachen. GA Bd. 77, 1933, S. 20−28, 190−196, 354−357.

ドルン Dorn

Tödtung auf Verlangen des Getödteten. GA Jg. 1, 1853, S. 325−333.

ドレンクマン Drenkmann (Staatsanwalt, Berlin)

Ueber den Einfluß des Rechtsirrthums auf die rechtliche Beurtheilung strafbarer Handlungen. GA Jg. 8, 1860, S. 163−174.

Ueber die Wahlvergehen. Ein Beitrag zur Revision der §§ 84−86 des Strafgesetzbuchs. GA Bd. 17, 1869, S. 168−179.

ドライアー Dreyer (Appellationsgerichtsrat)

Voreid oder Nacheid. GA Bd. 22, 1874, S. 228−231; Bd. 23, 1875, S. 308−309.

ドロスト　Drost, Heinrich

＊ 20.6. 1898, † 19. 1. 1956 Frankfurt a. M.

1930 PD／Bonn, 1931 o Prof.／Münster.

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 33, 239; ders., Die deutsche Strafrechtswissenschaft, 1978, S. 68 f.; ders., Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft, 1986, S. 381.

Die Zumutbarkeit bei vorsätzlichen Delikten, GA Bd. 33, 1933, S. 175−183.

ドゥルホイアー　Dulheuer (Kreisrichter, Dortmund)

Ueber die Unverletzlichkeit des Beichtsiegels in Strafsachen. GA Jg. 7, 1859, S. 56−62.

ドゥルヒホルツ　Durchholz (Amtsrichter)

Betrachtungen über die Strafabmessung nach dem Deutschen Strafgesetzbuch. GA Bd. 35, 1887, S. 261−274.

エープナー　Ebner, A.

Vgl. Miyazawa, Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissen schaft, 1986, S. 384.

Wilddiebstahl, Diebstahl, Unterschlagung, Hehlerei. GA Bd. 54, 1907, S. 252−268.

エックシュタイン　Eckstein, Ernst

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 35 f. 240.; ders., Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft, 1986, S. 385.

Die Züchtigung fremder Kinder in strafrechtlicher Beziehung. GA Bd. 56, 1909, S. 281−285.

Zum Begriff des Notstandes. GA Bd. 57, 1910, S. 264−265.

Streitfragen aus der Lehre vom strafbaren und straflosen Betruge. GA Bd. 58, 1911, S. 66−88, 338−353.

Automatendiebstahl oder -betrug. GA Bd. 58, 1911, S. 271−272.

Die Bereicherungsdelikte, insbesondere der Betrug bei öffentlich- und privatrechtlichen Zwangsverhaltnissen. GA Bd. 59, 1912, S. 29−39.

Die unbefugte Veräußerung fremder Gegenstände. GA Bd. 59, 1912, S. 414−434.

Kleine strafrechtliche Studien. GA Bd. 60, 1913, S. 216−224.

Das Zusammentreffen mehrerer Rückfalls- oder mehrerer Bandendelikte. GA Bd. 60, 1913, S. 408−410.

Zur Lehre vom schweren Diebstahl. Zugleich ein Beitrag zur Lehre von der Methodik. GA Bd. 61, 1914, S. 79−107, 273−331.

Bestrafung partiell Geisteskranker. GA Bd. 62, 1916, S. 224.

Prätorisches Strafrecht. Ein Vorschlag zur Umgestaltung des Handels-, Gewerbe-, Verkehrs- und Polizeistrafrechts. GA Bd. 64, 1917, S. 104−109.

Die Freiheitsstrafen im Militärstrafrecht. GA Bd. 67, 1919, S. 133−139.

Über das Zusammentreffen des Betruges mit anderen Delikten. GA Bd. 68, 1920, S. 126−139.

Bedingte Anklage statt bedingter Verurteilung. GA Bd. 69, 1921−1925, S. 40−44.

エーレンフロイント Ehrenfreund, B.

Eine strafprozessuale Frage. GA Bd. 53, 1906, S. 19−26.

アイスナー Eisner (Landrichter, Beuthen／Ostschlesien)

Über Haldendiebstahl, besonders im preußischen Rechtsgebiete. GA Bd. 56, 1909, S. 351−354.

エレント Ellendt (Staatsanwalt, Bartenstein)

Zur Auslegung des § 482 StPO. im Falle doppelter Untersuchungshaft. GA Bd. 39, 1891, S. 272−275.

エンゲル Engel (Landgerichtsdirektor, Gnesen)

Soll die Berufungsinstanz in Strafsachen bei den Landgerichten oder bei den Oberlandesgerichten gebildet werden? GA Bd. 52, 1905, S. 320−325.

エンゲルト Engert, E.

Ueber den Begriff von Gift. GA Jg. 9, 1861, S. 675−681.

エーリッヒ　Erich, Gerhard (Oberlandesgerichtsrat, Düsseldorf)

Vgl. Miyazawa, Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissen schaft, 1986, S. 392.

Zur Frage der Vollstreckbarkeit einer nicht im Urteilstenor ausgesprochenen Einzelstrafe. GA Bd. 60, 1913, S. 410−411.

Das Vergehen der fahrlässigen Urteilsbeugung. (§ 345 Abs. II RStrGB.). GA Bd. 61, 1914, S. 26−47.

Archive für Kriegsstrafrecht und für die neue Strafrechts- und Wirtschaftsordnung. GA Bd. 69, 1921−1925, S. 55−64.

Betrug bei Krediteröffnungsgeschäften (Kreditbetrug) sowie bei deren Versicherung und Rückversicherung. GA Bd. 72, 1928, S. 321−344.

エーヴァース　Evers, Rud. (Kreisrichter, Höxter)

Erörterungen über den Preußischen Injurien-Prozeß. GA Jg. 8, 1860, S. 609−617; Jg. 9, 1861, 24−29, 86−93.

エーヴァルト　Ewald (Landgerichtsrat)

Schuld des Vertheidigers als unabwendbarer Zufall. Zu § 44 St. Proz. O. GA Bd. 36, 1888, S. 80−86.

エーヴァルト　Ewald, Otto

Vgl. Miyazawa, Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft, 1986, S. 393.

Veräußerung von Einziehungsstücken zwischen Straftat und Urteilsfällung unter besonderer Berücksichtigung des Entwurfs von 1927. GA Bd. 72, 1928, S. 174−180.

ファツィリデス　Facilides, E. (Landgerichtsrat, Plauen i. V.)

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 39; ders., Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft, 1986, S. 394.

Zur Frage von der Rechtsbelehrung im Schwurgerichte. GA Bd. 33, 1885, S. 81−100.

Hülfsfrage zu der Frage von der „Rechtsbelehrung" im Schwurgerichte. GA

Bd. 34, 1886, S. 43−53.

Ergänzungsfrage zu der Frage von der „Rechtsbelehrung" im Schwurgerichte. GA Bd. 36, 1888, S. 212−225.

ファイゲ Feige (Staatsanwalt bei Kammergericht)

Ueber den Kausalzusammenhang der Irrthumserregung und Vermögensbeschädigung beim Betruge. GA Bd. 26, 1878, S. 303−308.

ファイリッチュ v. Feilitsch (Reichsgerichtsrat, Leipzig)

Ein Beitrag zum Kapitel des Kriminellen Aberglaubens. GA Bd. 56, 1909, S. 125−127.

Fortsetzung der nicht in der amtlichen Sammlung veröffentlichten Entscheidungen der Strafsenate des Rechtsgerichts. II. Gerichtsverfassungsgesetz. GA Bd. 68, 1920, S. 348−382.

Deutsche Kriminalpolitik. (Das Gesetz Zur Verfolgung von Kriegsverbrechen und Kriegsvergehen vom 18. Dezember 1919). GA Bd. 69, 1921−1925, S. 29−33.

ファイリッチュ v. Feilitzsch (Landgerichtsrat, Zwickau)

Randbemerkungen aus der strafprozessualen Praxis. GA Bd. 44, 1896, S. 305−313.

Sind Geisteskranke verhandlungsfähig? GA Bd. 45, 1897, S. 409−418.

ファイゼンベルガー Feisenberger (Staatsanwalt, Magdeburg)

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 39.

Ist nach Eröffnung des Hauptverfahrens die Einstellung des Verfahrens durch Beschluß wegen Mangel des Strafantrags möglich? GA Bd. 57, 1910, S. 175−178.

フェリッシュ Felisch (Landrichter, Berlin)

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 40; ders., Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft, 1986, S. 396 f.

Die Kommissionsberathungen der internationalen kriminalistischen Vereini

gung über die Behandlung jugendlicher Verbrecher. GA Bd. 39, 1891, S. 275−284.

Die dritte deutsche Landesversammlung der internationalen kriminalistischen Vereinigung. GA Bd. 40, 1892, S. 401−411.

Die Strafbarkeit des zu Veräußerungszwecken erfolgenden Entfernens nicht entwertheter Versicherungsmarken aus der Quittungskarte. GA Bd. 41, 1893, S. 105−119.

Der dritte internationale Kongreß für Kriminalanthropologie. GA Bd. 41, 1893, S. 333−350.

フィンガー　Finger, August

＊ 2. 4. 1858 Lemberg (Galizien), †2. 9. 1935 Halle／Saale.

1891 ao Prof.／Prag, o Prof.／Prag, 1900 Würzburg, 1902 Halle.

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 40 ff., 241 f.; ders., Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft, 1986, S. 399.

Thatbestandsmerkmale und Bedingungen der Strafbarkeit. GA Bd. 50, 1903, S. 32−59.

フレープ　Fraeb, Walter Martin

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 46 f., 242.; ders., Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft, 1986, S. 402.

Die Behandlung der Morphiumsucht in Gesetz und Rechtsprechung, zugleich ein Vorschlag zur Reform des Strafgesetzbuches. GA Bd. 59, 1912, S. 69−77.

Beseitigung unrichtiger Klageerhebung und unrichtigen Sachleitungsbeschlusses im Strafprozeß. GA Bd. 60, 1913, S. 369−382.

フランケ　Francke (Obergerichtsrat, Göttingen)

Das Deutsche Strafgesetzbuch und die Strafsachen aus Handlungen der Zeit vor dessen Gesetzeskraft. Zugleich ein Beitrag zur Systematik des neuen Deutschen Strafrechts. GA Bd. 20, 1872, S. 14−70.

Drei Abhandlungen zur Preußischen Strafprozeß-Ordnung vom 25. Juni 1867. GA Bd. 20, 1872, S. 295−320. (I. Die Zuziehung von Schöffen in den Ausnahmefällen des § 12. II. Der § 486 der Strafprozeß-Ordnung in Hinsicht auf die

Rechtsmittel-Instanz. III. Die Zürucknahme des Strafantrages im Hauptverfahren.)

Die Grenzen zwischen der Strafgewalt der einzelnen Deutschen Bundesstaaten. GA Bd. 21, 1873, S. 72−96.

Die Preuß. Strafprozeß-Ordnung vom 25. Juni 1867 in ihren Abänderungen durch die Deutschen Reichsgesetze. GA Bd. 21, 1873, S. 395−425.

フランク Frank, Fritz (Amtsrichter, Düsseldorf)

Ruhestörender Lärm und grober Unfug. GA Bd. 34, 1886, S, 145−158.

Die Absicht zu beleidigen und § 193 R. St. G. B. GA Bd. 35, 1887, S. 36−49

Kann grober Unfug durch die Presse und durch Fahrlässigkeit verübt werden? GA Bd. 36, 1888, S. 267−274.

Die Verübung groben Unfugs durch die Presse. GA Bd. 38, 1890, S. 413−419.

フランク v. Frank, Reinhard

＊16. 8. 1860 Reddighäuser Hammer bei Hatzfeld／Eder (Hessen), † 21. 3. 1934 München.

1890 o Prof.／Gießen, 1899 Halle, 1902 Tübingen, 1913 München.

Vgl. Miyazawa, Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft, 1986, S. 402 f.

Über das Strafrecht des Codex Juris Canonici. Münchener Beitrag f. Birkmeyer. GA Bd. 65, 1918, S. 401−417.

フレーゼー Frehsee (Staatsanwalt, LG Frankfurt a. M.)

Was ist unter „Sitzungsperiode" im Sinne des Art. 84 der preußischen Verfassung und Art. 31 der deutschen Reichsverfassung zu verstehen? GA Bd. 32, 1884, S. 361−369.

フロイデンシュタイン Freudenstein, Carl Gustav

Die affirmative und die negative Frageform im Schwurgerichtsverfahren. Bd. 30, 1882, S. 190−195.

Das Materielle und Formelle der schwurgerichtlichen Fragestellung in that-

sachlicher und juristischer Beziehung. GA Bd. 31, 1883, S. 97−138.

Ueber den Schutz gewerblicher und technischer Geheimnisse durch die Gesetzgebung. GA Bd. 32, 1884, S. 265−294.

Das schwurgerichtliche Berichtigungsverfahren. GA Bd. 33, 1885, S. 369−400.

フライムート　Freymuth, A. (Landrichter, Minitz)

Zur Abfassung der Revisionsbegründung in Strafsachen. GA Bd. 56, 1909, S. 279−281.

フリートレンダー　Friedlaender, Adolf

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 49, 243.

Verfahren bei Erledigung von Ersuchen ausländischer Behörden an inländische Gerichte in Strafsachen. GA Bd. 43, 1895, S. 206−209.

フリートリヒス　Friedrichs, Karl (Justizrat, Ilmenau i. Thur.)

Das Recht der polizeilichen Vernehmungen. GA Bd. 54, 1907, S. 394−407.

Polizeiliche Strafverfugungen im Lichte des Allgemeinen Rechtes. GA Bd. 71, 1927, S. 201−204, 241−244, 281−285, 321−327; Bd. 72, 1928, 9−14.

Private Fachschulen in Berlin. GA Bd. 72, 1928, S. 161−164.

Polizeiverordnung und Zwangsgeld. GA Bd. 75, 1931, S. 321−326.

Überflüssige Handlungen des Strafrichters. GA Bd. 76, 1932, S. 273−277.

Über die Grenzen der landesrechtlichen Strafgewalt. GA Bd. 77, 1933, S. 242−251.

フリッツェ　Fritze (Amtsrichter, Steinau a. d. O.)

Wesen und Tragweite eines behufs Beendigung des Privatklageverfahrens geschlossenen Vergleichs. GA Bd. 51, 1904, S. 292−309.

フロム　Fromm (Staatsanwalt, Lüneburg)

Zur Handhabung des preuß. Ges. vom 29. Juli 1885 betr. das Spiel in außerpreußischen Lotterie. GA Bd. 44, 1896, S. 92−98.

Ueber das Jagdrecht auf öffentlichen Strömen und Flüssen mit besonderer

Berücksichtigung der Provinz Hannover, insbesondere des Herzogthums Lüneburg. GA Bd. 46, 1898／99, S. 104−109.

フックス Fuchs, Carl Ludwig

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 49 f., 243.

Bemerkungen zu dem Entwurfe eines Strafgesetzbuchs für den Norddeutschen Bund. GA Bd. 17, 1869, S. 626−639.

Ueber die Behandlung der sogenannten Antragsverbrechen im Norddeutschen Bundes-Strafgesetzbuch. GA Bd. 19, 1871, S. 82−87.

Zur Lehre von der intellektuellen Urkundenfälschung. Rechtsfall. Mitgetheilt und erörtert von…… GA Bd. 19, 1871, S. 417−426.

Civilistische Erörterung zweier Ober-Tribunals-Entscheidungen im Strafrecht. GA Bd. 19, 1871, S. 659−670.

Zur Lehre von den Antragsdelikten. GA Bd. 20, 1872, S. 433−438.

Ueber die Nothwendigkeit eines schriftlichen Obduktionsberichtes. GA Bd. 22, 1874, S. 106−111.

Zur Interpretation des § 48 der Straf-Prozeß-Ordnung. GA Bd. 28, 1880, S. 169−176.

Für das neue Prozeßverfahren. GA Bd. 29, 1881, S. 412−421.

Kritische Erörterung von Entscheidungen des Reichsgerichts in Strafsachen. GA Bd. 29, 1881, S. 169−181, 422−434; Bd. 30, 1882, S. 340−349; Bd. 32, 1884, S. 161−179.

Zum Prozeß Gräf. GA Bd. 33, 1885, S. 401−430.

Vorverfahren und Hauptverfahren im Sinne der Gebühren-Ordnung für Rechtsanwälte. GA Bd. 35, 1887, S. 85−97.

フルト Fuld, Ludwig

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 50 ff., 243 f.; ders., Zeitschrift für die gesamts Strafrechtswissenschaft, 1986, S. 409 f.

Der Rückfall im französischen und deutschen Rechte. GA Bd. 31, 1883, S. 237−246.

Die preußische Strafrechtspflege im Jahre 1881. GA Bd. 31, 1883, S. 283−287.

Das Motiv im deutschen Strafgesetzbuch. GA Bd. 31, 1883, S. 321−325.

Der Schutz der persönlichen Freiheit nach englischem, französischem und deutschem Recht. GA Bd. 32, 1884, S. 34−52.

Das Fragerecht im deutschen Strafverfahren. GA Bd. 33, 1885, S. 182−188.

Der Einfluß der Kriminalstatistik auf Strafgesetzgebung und Strafrechtswissenschaft. GA Bd. 33, 1885, S. 220−231.

Ein Begnadigungsrecht des Ehemanns. GA Bd. 33, 1885, S. 334−338.

Das französische Gesetz über die Rückfälligen. GA Bd. 34, 1886, S. 193−215.

Die deutsche Kriminalstatistik für 1885. GA Bd. 35, 1887, S. 275−285.

Die Oeffentlichkeit des Verfahrens vor Gericht. GA Bd. 36, 1888, S. 335−345.

Die Gotteslästerung und das Strafgesetzbuch. GA Bd. 39, 1891, S. 142−147.

Die Entschädigung unschuldig Verurtheilter in Frankreich. GA Bd. 45, 1897, S. 14−20.

Zur Reform der franz. Voruntersuchung. GA Bd. 46, 1898／99, S. 406−412.

フンケ　Funcke (Appellationsgerichtsrat)

Ueber Begünstigung und Hehlerei. § 37 und § 237 des Strafgesetzbuches. GA Jg. 2, 1854, S. 611−620.

ガフロン　Gaffron (Staatsanwalt, Göttingen)／**プリットウィッツ**　Prittwitz

Ueber die Anwendung des § 244 der R. St. Proz. O. GA Bd. 28, 1880, S. 426−433.

Ueber die Fahrlässigkeitsvergehen des Deutschen Strafgesetzbuchs und deren Bestrafung. GA Bd. 30, 1882, S. 145−169.

ガリ　Galli (Reichsgerichtsrat)

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 54.

Zur Begriffsbestimmung der Pressdelikte. GA Bd. 52, 1905, S. 161−169.

ガーツェ　Gaze, O.

Der Begriff des „verantwortlichen Redakteurs". GA Bd. 52, 1905, S. 36−54.

ジェンナーロ　di Gennaro, Francesco

Die Arbeitseinstellung im italienischen Recht. GA Bd. 59, 1912, S. 500−501.

ゲンナート Gennat

Vgl. Miyazawa, Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissen schaft, 1986, S. 415.

Strenger Arrest und Dunkelarrest. GA Bd. 62, 1916, S. 40–66.

ゲンツ Gentz, Werner

Vgl. Miyazawa, Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft, 1986, S. 415.

Hehlerei beim Ankauf von Brotkarten. GA Bd. 65, 1918, S. 418–425.

ゲオルゲ George, Heinz

Wanderlagersteuerpflicht von Autohausieren. GA Bd. 77, 1933, S. 341–345.

ゲルナート Gernerth F. (Oberlandesgerichtsrat, Wien)

Vgl. Miyazawa, Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft, 1986, S. 417.

Irrthum der Strafjustiz. GA Bd. 31, 1883, S. 417–432.

ゲルチェン Gertschen, Adalbert (Bezirksrichter, Marburg/Österreich)

Majestätsbeleidigung und Wahrheitsbeweis. GA Bd. 32, 1884, S. 53–58.

ゲスラー Geßler, Th.

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 56, 246.

Ueber das fortgesetzte Verbrechen. GA Jg. 9, 1861, S. 73–79, 145–154, 297–304.

Ueber die Konkurrenz verschiedener Strafgesetze während des Laufes fortgesetzter oder fortdauernder Verbrechen. GA Jg. 9, 1861, S. 514–516.

Zur Lehre von der Fälschung. GA Jg. 10, 1862, S. 441–450.

Ueber die Unterschlagung an vertretbaren Gegenständen. GA Jg. 10, 1862. S. 598–604.

ガイヤー　Geyer, August

＊ 31. 5. 1831 Asch／Bohmen, † 27. 12. 1885 München.

1860 o Prof.／Innsbruck, 1872 München.

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 56 f., 246.; ders., Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft, 1986, S. 417 f.

Ueber die Vererblichkeit der Geldstrafen. GA Bd. 13, 1865. S. 161−163.

Zur Lehre vom dolus generalis und vom Kausalzusammenhang. GA Bd. 13, 1865, S. 239−246, 313−323.

Ein Beitrag zur Wurdigung der neuesten Ansichten über die Unterscheidung zwischen Urheberschaft und Beihülfe. GA Bd. 16, 1868, S. 593−611.

Das neue Strafgesetzbuch für den Staat New York. GA Bd. 30, 1882, S. 81−102.

ギーネ　Giehne（Amtsrichter, Oels）

Erörterungen zur Behandlung von Haftsachen im Ermittelungsverfahren. GA Bd. 52, 1905, S. 211−214.

ギースナー　Giessner

Die strafrechtliche Stellung der Kriegsgefangenen nach deutschem Strafrecht, insbesondere ihre Verantwortlichkeit für vor der Ergreifung begangene Straftaten. GA Bd. 65, 1918, S. 240−268.

ギリシェヴスキー　Gillischewski（Landgerichtsrat, Cottbus）

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 57.

Zur Auslegung des § 360 Nr. 11 RStGB. GA Bd. 39, 1891, S. 129−140.

ギンスベルク　Ginsberg（Amtsrichter, Dresden）

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 57.

Zu §§75, 51 des Gerichtsverfassungsgesetzes und § 288 der Strafprozeßordnung. GA Bd. 44, 1896, S. 233−238.

ジヴァノヴィッチ　Givanovitch, Thomas

Vgl. Miyazawa, Schweizerische Zeitschrift für Strafrecht, 1981, S. 82 f.;

ders., Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft, 1986, S. 419.

Prinzipien der legislativen Regelung der Grundprobleme der Berufsgeheimnisverletzung. GA Bd. 57, 1910, S. 314−321.

Über den Begriff der Beleidigung. GA Bd. 61, 1914. S. 195−201.

ゲープ　Göb

Bemerkungen zu § 176 1 des Reichsstrafgesetzbuches. GA Bd. 27, 1879, S. 417−419.

Die Behandlung des Nothstandes und insbesondere die Verschuldung in Herbeiführung desselben. GA Bd. 28, 1880, S. 183−193.

ゲーツ　Göz

Der völkerrechtliche und strafrechtliche Schutz des feindlichen Eigenthums im Landkriege. GA Bd. 18, 1870, S. 806−821.

ゴルデンリング　Goldenring (Landrichter, Mülhausen/Elsaß)

Die Berufung in Strafsachen. GA Bd. 32, 1884, S. 317−329.

ゴルトシュミット　Goldschmidt, James Paul

＊17. 12. 1874 Berlin, † 18. 6. 1940 Monte Video.

1908 ao Prof.／Berlin, 1919 o Prof.／Berlin, 1939 nach England, 1940 nach Uruguay.

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 59, 248 ; ders., Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft, 1986, S. 422.

Aus der Lehre vom Diebstahl. GA Bd. 47, 1900, S. 261−270, 348−360.

Begriff und Aufgabe eines Verwaltungsstrafrechts. GA Bd. 49, 1902, S. 71−93.

Schliesst die Forderung der Pflichtvorstellung als Schuldvoraussetzung die Zurechnung zum Charakter aus? GA Bd. 51, 1904, S. 340−348.

Die „Typentheorie". Eine kritische Besprechung von Belings „Lehre vom Verbrechen" und der 3. Auflage seiner „Grundzüge". GA Bd. 54, 1907, S. 20−42.

Verfassung und Verfahren der ausserordentlichen Kriegsgerichte des preussischen Gesetzes über den Belagerungszustand vom 4. Juni 1851. GA Bd. 62, 1916, S. 251−297.

Staatsanwaltschaft und Kriminalpolizei in Frankreich. GA Bd. 67, 1919, S.

179−204.

ゴルトダンマー　Goltdammer, Theodor

＊ 5. 1. 1801 Stettin, † 5. 1. 1872 Berlin.

1834 Kreisgerichtsratsdirektor, Cöslin, 1839 Appellationsgerichtsrat, Frankfurt a. O., Hülfsarbeiter im Justizministerium (Berlin), 1841 Kammergerichtsrat, 1852 Geheimer Obertribunalrat.

Ueber die Stellung des vorsitzenden Richters zu den Geschworenen, insbesondere über seinen Schlußvortrag im Schwurgerichtsprozesse. GA Jg. 1, 1853, S. 164−184, 334−346.

ゴルツ　Goltz II.

Ueber die Behandlung der Entschädigungsfrage in den Untersuchungen wegen Nachdrucks. GA Jg. 8, 1860, S. 73−77.

Ueber die vorläufige Beschlagnahme und Konfiskation in den Untersuchungen wegen Nachdrucks. GA Jg. 9, 1861, S. 230−233.

ゴルツ　Golz (Kreisrichter, Berlin)

Die Preußische Nachdrucks-Gesetzgebung, erläutert durch die Praxis des Königlichen literarischen Sachverständigen-Vereins. GA Bd. 11, 1863, S. 246−252.

ゴルデン　Gorden (Amtsrichter, Hamburg)

Beiträge zum Privatklageverfahren. GA Bd. 45, 1897, S. 20−27.

グラーフ　Graf (Oberregierungsrat, München)

Die Einziehung im Zollstrafrecht. GA Bd. 66, 1919, S. 64−67.

グラスホフ　Grasshof (Landgerichtsdirektor, Posen)

Die Vorbereitung der Hauptverhandlung der Schwurgerichte. GA Bd. 63, 1917, S. 329−332.

Über die Seelenkunde bei der Zeugenaussage. GA Bd. 64, 1917, S. 82−87.

Über die Daseinsberechtigung und Zuständigkeit der Schwurgerichte. GA Bd.

69, 1921−1925, S. 33−35.

グレーベ Grebe, F.

Vgl. Miyazawa, Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft, 1986, S. 426.

Die Bedeutung des § 4 des Einführungsgesetzes zur Strafprozeßordnung. GA Bd. 60, 1913, S. 382−395.

Verfolgung oder Nichtverfolgung von Übertretungen nach § 153 Abs. 1 StPO. GA Bd. 72, 1928, S. 81−90.

グレーテナー Gretener, Xaver Severin

† 27. 8. 1933 Breslau.

1833 Bern, 1900 o Prof./Breslau.

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 60, 248 f.; ders., Schweizerische Zeitschrift für Strafrecht, 1981, S. 90 f.; ders., Zei tschrift fur die gesamte Strafrechtswissenschaft, 1986, S. 426.

Das neue Strafgesetzbuch fur Russland. GA Bd. 50, 1903, S. 357−361.

グロッシュフ Groschuff, Albert

* 1. 4. 1835 Berlin, † 26. 2. 1903.

Geheimer Oberjustizrat, Präsident des Strafsenats beim königlichen preußischen Kammergericht.

Verantwortlichkeit des Redakteurs periodischer Druckschriften für die durch die Presse begangenen strafbaren Handlungen. GA Bd. 23, 1875, S. 27−30.

グロース Gross, Hans

* 26. 12. 1847 Graz, † 9. 12. 1915 Graz.

1899 o Prof./Czernowitz, 1902 Prag, 1905 Graz.

Vgl. Miyazawa, Schweizerische Zeitschrift für Strafrecht, 1981, S. 92 f.; ders., Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft, 1986, S. 428.

Das Wahrnehmungsproblem und der Zeuge im Strafprozess. GA Bd. 49, 1902, S. 184−203.

グローセ　Große（Appellationsgerichtsrat,）

Zum Begriff der Kuppelei. GA Bd. 23, 1875, S. 102−108.

グルーホット　Gruchot, Julius Albert（Appellationsgerichtsrat）

＊ 19. 3. 1805 Frankenstein（Schlesien）, † 9. 10. 1879. Berlin.

Ueber die Anstiftung von Verbrechen durch Mißgriffe der Polizeigewalt. GA Jg. 2, 1854, S. 639−642.

グリューンヴァルト　Grunwald（Kriegsgerichtsrat, Potsdam）

Können auch Zivilgerichte auf militärische Ehrenstrafen erkennen und in welchen Fällen? GA Bd. 55, 1908, S. 214−221.

Gesetz zur Vereinfachung des Militärstrafrechts. GA Bd. 71, 1927, S. 5−11.

Bemerkungen zum Problem der Todesstrafe. GA Bd. 77, 1933, S. 103−108.

グルーナー　Gruner（Ober-Gerichtsrat, Verden）

Bedeutung des Ausdrucks „förmliche Anklage“ in §§ 176, 177 des Reichs-Strafgesetzbuchs. GA Bd. 20, 1872, S. 325−331.

ギュンター　Günther, L.（Prof., Gießen）

Vgl. Miyazawa, Der Gerichtssaal, 1976, S. 65; ders., Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft, 1986, S. 433.

Tomaso Natale, Marchese di Moterosato, ein in Deutschland vergessener Vorläufer Beccaria's. GA Bd. 48, 1901, S. 1−38.

グートヤール　Gutjahr（Oberlandesgerichtsrat, Leipzig）

Vgl. Miyazawa, Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft, 1986, S. 433.

Die Partei-Uniformverbote. GA Bd. 76, 1932, S. 1−12.

グートシュミット　Gutschmidt,（Kammergerichtsrat）

Bemerkungen über die Feststellung des Thatbestandes. GA Jg. 2, 1854, S. 766−769.

グットマン Guttmann, J. (Rechtsanwalt, Berlin)

Zur Frage des Diebstahls an Elektrizität. GA Bd. 45, 1897, S. 84–92.